

質問者 宮部議員	答弁者	村長	総務課
<p>ふるさと会の現状と今後の課題について</p> <p>中札内村には東京・札幌・帯広にふるさと会があり、中札内村を愛する力強い応援団であります。ここ数年はコロナの影響で活動が休止していましたが、コロナウイルス感染症の位置づけも5類感染症に移行されたため、ふるさと会の活動も以前の状況に戻りつつあります。</p> <p>私は、令和元年12月定例会でも「ふるさと会の現状と課題」について質問をさせていただきましたが、その後の状況はどのようになっているのか再度お聞きしたいと思います。</p> <p>前回質問時の答弁では、身内や知人等の紹介や、小中学校同窓会においてふるさと会が紹介されているが、個人情報取り扱いが厳密になり、村出身者の把握が困難な状況にあり、若い会員の確保にはなかなか至っていないとの答弁でした。</p> <p>また、会員増加に向けた村の協力については、公共施設に募集ポスターを掲示したり、ホームページで活動を紹介しふるさと会への加入を促しているが、大きな成果はみられないとの事でした。</p> <p>私も全てのふるさと会に顔を出しているわけではありませんが、現在中心となって活動されている方々も、それぞれお年を召してきており、今後の活動が心配される場所ですが、中札内村出身者が各地で活躍されている方もまだおられると思います。</p> <p>前回の答弁でも、各ふるさと会役員の皆様と協議し、会員増につながる方策等を検討してゆくとの事であったが、その後の状況について伺います。</p>			
<p>中札内村のふるさと会は、東京・札幌・帯広の3つが組織されており、会員間の融和を図りながら様々な場面で本村のまちづくりにご協力いただいております。5年前、宮部議員から会員増に向けたご質問をいただいたことを踏まえ、村ではこれまで実施してきた補助金交付による運営の財政支援に加え、令和2年度に新たな補助制度を創設し、ふるさと会の総会および交流会に初めて参加する非会員の方を対象に、交流会の参加費用および旅費の一部を助成することとしました。</p> <p>直後に新型コロナウイルスの感染拡大が続き、制度の利用機会はなくなってしまいました。ふるさと会との絆を大切にするため、令和2、3年度の2度にわたり村から会員の皆</p>			

様に特産品を贈呈させていただきました。普段は会に参加されない方からもお礼のお手紙をいただくなど、新たな触れ合いが生まれました。

総会・交流会が本格的に再開した今年度は、札幌と東京のふるさと会から初めて助成制度の利用申請があり、交流会への初参加につながっております。今後も会の事務局を通じて同制度の普及に努め、新たな参加者の確保につなげたいと考えております。

また、離れた場所に住んでいてもふるさとに関心を持っていただけるよう、村ではSNSをはじめとするインターネットを活用した情報発信に力を注いでおり、ふるさと会の活動状況の紹介も行っております。すぐに会員増強へとつながるものではありませんが、中札内村出身者や中札内村ファンの方など若年層を含めて様々な世代とのつながりが生まれているところです。

本村出身者や本村にゆかりのある方が相互に親睦を図るふるさと会は、中札内村を離れても、ふるさとの発展を温かく見守ってくださる心強い応援団であり、村にとっては無くてはならない大切な存在です。会員の高齢化対策などに妙案はありませんが、村としては引き続きふるさと会の役員の皆様との連携を密にしながら、温かい交流の輪を広げられるよう支援してまいります。

今年度は、宮部議員を含めて村議会から複数名の議員に総会・交流会にご参加いただき、個人的なつながりにより新たな参加者の呼び起こしにご協力いただきました。今後も会員拡大にご協力をいただければと存じます。